

# 川崎の男女共同社会を **すすめる会通信** No.218

●連絡先 藤井光子 hymico@me.com ☎ 090-1843-4689 ●発行日2022年 11月15日  
〒214-0003 川崎市多摩区菅稲田堤3-8-2-503 ●HP <http://web-k2.jp/ssk1985/>

## 非正規シングル女性の 現状とこれから

コロナ禍で女性たちの働き方は…

Part.3

2022  
10/22(土)

13:30~15:30

ノンフィクションライター

講師 飯島 裕子さん

『ルポ コロナ禍で追い詰められる女性たち』他  
BIG ISSUE インタビュー担当

### 27人参加（男性5人）で多様な意見交換

—女性市議2人・国会議員秘書の発言も—  
チラシが市民館などに配架されると、20代~70代  
までの方の参加申し込みが相次ぎました。★大庭裕  
子市議(中原区)、赤石ひろ子市議(多摩区)、ごえん  
楽市で知り合った国会議員(鈴木いさん)秘書の方も  
参加、議会にも届けると熱心に発言。

### コロナ禍で 女性たちの働き方は どう変わったか？

飯島裕子さんは、2019年の同講座Part.1  
「社会の変化と女性の貧困を考える」に続き  
2回目の登壇です。現場に密着した取材で現  
状を可視化しています。

今回の講座では、世界的潮流として

- ▶女性に困難が集中  
：女性・女兒がコロナ対策の中心に
- ▶陰のパンデミック (shadow pandemic)  
：女性と女兒への暴力。
- ▶女性不況 (She-cession)  
：女性に集中した失業

これらの問題を

- ①シングルマザー
- ②エッセンシャルワーカー
- ③派遣労働者
- ④高齢女性

の女性たちの状況から迫りました。

## コロナ禍で今まで通り働けなくなり、生活困窮

フロア発言 新見正子さん (69才 川崎区)

こういうところで初めて発言します。飲食サー  
ビス業に従事し、中華レストラン食器洗浄部に勤  
務して7年目で初めてコロナの壁にぶちあたり、  
まきこまれました。

中華レストランの直接雇用のパートです。2月  
のコロナ全盛のとき、突然休んでくださいと言  
う、”指示ではなく3月からシフトを減らす”お願  
いがあり、お店の事情もあるので「協力する」と  
深く考えず返事をしました。ひと月の半分の出社  
がその半分となり、実際一週間分の給料となっ  
てしまい、家賃、光熱費が出せない状態となり、東  
京ユニオンに電話をしたら、川崎労連を紹介され

初めて相談しました。3月から交渉し9月に成  
立、補償の計算方法が会社の方法で行ったため、  
少ない金額で、3月分だけ不足分まるまる補償さ  
れました。半年ちかく交渉し、補償は少なかった  
が先に進みたいと思い、それでいいですと返事を  
しました。約1年間ひと月3万から2万八千円の  
収入です。

私は69歳です。少ない年金は家賃にあてて、生  
活費、光熱費をどうするかというところで、生活  
保護を申請し、審査に入り決まりました。大変な  
思いをしました。でも職を失う人はもっと大変で  
す。しんどい一年でした。(発言要旨)

# 非正規心シングル女性の現状とこれから 講演要旨

講師：飯島裕子さん／ノンフィクションライター



## 1 非正規シングルマザー 〈もし自分が感染してしまったら〉

“保育園が開くかどうかわからなかったので職場にお休みを申し出ましたが、人手不足を理由に断られました。もし自分が感染してしまったらという不安が拭えず、退職。フードバンクの支援を受けながら、行政窓口で臨時パートとして働いています。コロナになってから、この国では父親がいないと本当に生きづらいのだと感じることばかり。金銭面はもちろん、“ステイホーム”の影響で家族の存在感が増しているからなのかもしれません。将来への不安や孤独感から娘につらくあたってしまうことがあって、そんな時は自己嫌悪に陥ってしまいます” 33歳シングルマザー、元派遣介護職(娘5歳)

### シングルマザーの苦境

- \* 高い貧困率と就業率
- \* 仕事の掛け持ち、ワンオペ育児
- \* 7割が雇用・収入に影響、  
3割が「自発的」休職・退職へ
- \* 1日2食に減らしている  
休業補償はなく解雇された  
オンライン授業を受けられない  
子どものバイト減の影響…

## 2 エssenシャルワーカー

〈介護崩壊の危機の中で〉

“施設での夜勤明けの後、そのまま3件の訪問介護をこなして、先程帰宅。38時間寝ていない…。いくつものお宅を行き来しなければならず、ウイルスの媒介者になってしまうのではないかと不安を強く持っています。訪問介護の現場では防護服やゴーグルはおろか、マスク、消毒液、手袋すら底をつきそうな状況です。(中略) コロナ禍によって介護崩壊へのスピードがさらに加速化していくことは避けられないと感じています” (65才訪問介護ヘルパー)

## 3 派遣労働者 〈派遣切りに怯えながら〉

“正規社員から順番に時短勤務、在宅勤務に。派遣の私はずっと通常勤務のまま。時短勤務になると収入が減るので、経済的な意味では良かったのかもしれない。感染リスクに晒されながら通勤しているのは、非正規が多い？ 正社員は休業補償も手当もボーナスもあり様々な面で優遇。一方、非正規は少しの期間仕事がないだけですぐに干上がってしまう。ワクチンの職域接種が早い段階から始まったが、在宅勤務の正社員とその家族優先で、命の格差のようなものを感じました。” (48才、派遣社員)

### エssenシャルワーカーの苦境

- \* 医療従事者への感謝から介護士、保育士、スーパー店員、清掃員、飲食店員、など、エssenシャルワーカー(生活基盤を支える人)への注目
- \* エssenシャルワーカーの多くは非正規/女性/低賃金
- \* 「感謝」とは裏腹の「待遇悪化」も

### 非正規はテレワークできない

- \* 無人のオフィスには非正規の女性ばかり  
非正規は在宅不可(セキュリティ?)  
有給休暇扱い、休業補償出ない、雇い止め、  
時短勤務不可…
- \* テレワーク実施率(内閣府)
  - ・正規42%/非正規18%(年収300万円未満13%)
  - ・男性34%/女性20%→大企業で年収が高い男性
- \* 給料、待遇のみならず命の格差も

## 4 単身高齢女性

〈声を上げることすらできない人々〉

- \* 64歳ホームレス状態の女性がベンチに座っていて殺害された。
- \* デジタル社会の急発展によるさまざまな不利益(ワクチン・診察・買い物・他者とのつながり・SNS発信できない…)
- \* コロナによるリスク増で孤立化、不可視化がさらにすすむ
- \* リスク増にもかかわらず、働かざるを得ない

## 非正規女性がひとり負け

\* 解雇/雇い止めは女性非正規へ集中  
男性 非正規32万人減、女性 非正規65 万減  
(2020年前年比)

「宿泊業・飲食サービス業」(-46%)

「卸・小売り業」(-33%)

\* 主たる生計者(世帯主)=女性=非正規が当たり  
前 男性稼ぎ主モデルの崩壊

### 女性雇用（非正規）への影響

女性非正規雇用は50万人減少。  
(2019年と2020年同月比較)

女性の休業者は男性の3倍。非労働化率2倍。労働時間は15.5%減。

### にもかかわらず「半人前」の理不尽

\* 女性非正規は未だ雇用の調整弁（いつでも切れる労働者）シフト減だが休業手当なし(女性非正規74%受けず 野村総研)

\* 蔑ろにされるケアワーク

エッセンシャルワーカーの変わらぬ状況(介護士、保育士、児童相談員、婦人相談員、保健師.....)

## ないものとされるシングル女性

\* コロナ対策（給付金など）：子育て世帯中心／ 関心の中心は若年層。研究会でも言及なし(女性支援や孤独、孤立対策担当室など)

\* 少子化対策大号令の中、負担増でも我慢…(介護保険負担増、年金支払い45年...)

→ますます不可視化、声を上げることが封じられる。

## 増してゆく生きずらさ

\* 頻発する無差別巻き込み犯罪

セルフネグレクト(緩慢な自殺)

周囲に助けてと言えない

言う気力すら奪われている状態

\* 生産性重視の社会 :生きづらい(息づらい)

「生きているだけでいい」とならない社会

根強い「自己責任論」

## 「生理の貧困」問題から考える

\* 経済的に厳しい状態なので、無償配布はありがたいけれど、本音を言えばお米など出費がかさむ必需品のほうが助かる。生理用品だけを我慢しているわけではないので…

(30代女性)

## コロナ禍を経て、今、私たちに何ができるのか？

### 彼女は私だ

「生きずらさ」に見える化すること

「個人」ではなく「社会」の中で「生きずらさ」を位置づけること

小さくてもいいから声を上げること

→ 64歳ホームレス状態の女性がベンチに座っていて殺害された。追悼デモの写真





### 掛水さん（全川崎地域労組）

川崎で個人ではいれる労働組合の役員をしています。元医療従事者です。

新見さんのケースは、ご自分の働いている状況、どんなシフト、有給などよくわかっていない状況でした。

会社も休業補償など、知っていてもなかなか申請しない場合もあり、なかなか折り合いがつかず、話をもっていくまでに時間がかかりました。新見さんが仕事から手をひかないのがよかったです。

まわりの方にまめに相談されたのも良かったです。（どこにも相談しないで）やめる人が多い。ご自分で判断して決めているのですね。是非ネットワークを利用して、相談してほしい。

### ◆麻生区（男性：生協職員）

川崎男女共同参画センターの「非正規シングル女性の調査」で読んで、まとめに驚きました。調査内容の実態にも驚きましたが、特に調査のまとめで「困難に対する金銭的補償、生活支援の相談・手続きへの同行、居場所づくり」などの提言です。

居場所もすくらむだけの1カ所ではたりないと思ったら、7月にはカフェを立ちあげられた。思い切ったことをされるなあと思いました。

男女共同参画センターの立場から行政の政策に対して思い切った提案をする、声をあげていく意義が大きいと思います。

### ◆多摩区（共働き女性）

小学1年と3年の子どもがいます。本日多くの気づきがあり感謝しています。一斉休校の時、正社員で、テレワークで、子どもがいて仕事ができなかったことが、よみがえってきました。

自分は就職氷河期世代で、アルバイト、パート、(そして)正社員へと、なるべく目をつけられないように、何とか育休、産休をまっとうできるように働いてきました。上司に正社員の希望を出したら、驚かれました。私が「正社員になりたいとは思っていない…」と欲していたらしいです。

自分の思いが伝わらないので、声をあげていくことが重要です。女性ための相談会で、当事者…みんな広い意味での当事者であり、自分ごとと考える、おかしいことと大小にかかわらず、声を上

げていくべきだと思います。

自分は「会社にとって戦力外」に、追いやられたと感じていましたが、これは自分（自身）が、生きづらさを「見える化できていなくて」、社会における効率を重視する、新自由主義の結果なのではないかとも思います。

### ◆菊池さん（2020非正規講座 Part2 パネラー）

高卒で20年くらい、40歳手前まで非正規、主に販売員などで働いてきましたが、当時働いていた人たちはどうしているのか…。よくわかりませんが、不安です。

コロナで状況が見えやすくなったが、いままでとあまり変わっていません。「今日暇だから帰っていいよ」「来月からシフト減らして」などと言われたり、一気に見えやすくなりました。状況が変わらないのには、不安に思っています。

声を上げるということは重要なことで、私は38歳で大学入学し、違う方向に進むようになり、声をあげられるようになりました。ギリギリの人は時間や情報をみる余裕もない。渦中にある人ほど声をあげにくい。自分自身も声を拾っていくことが、必要だと思う。戦力外にされた感じの人にどういう方法で声をかけられるか（飯島さんに）聞きたいです。

### ◆飯島裕子さん（講師）

声を上げるのは先のことだとしても、彼女は私であり、自分の生きづらさは、自分のせいではなく、社会のせいです。会社のなかで、自分ががんばってない（のではないか）という、構造的に「自己責任」だと思わされている。このことに気がついて欲しいと思います。

個人の生きづらさには、あなたは悪いことをしていない、という存在が必要です。女性のための相談会(とか)、国立にJikkaという居場所があります。そこは誰がボランティアで、誰が相談者かわからない感じです。いるだけでいい、話をきいてくれるだけでいい。アウトリーチできる場所、名古屋や、仙台にもあります。

◆納米さん（すくらむ館長）

サテライトのお月さまカフェは、昨年インタビュー調査で「心身共にリフレッシュの場が欲しい」「情報相談の入り口になるような仕掛けが欲しい」との要望から始まりました。

男女共同参画センターはいかめしい施設というハードルがあります。こちらから町にでる。子ども食堂のおとな版のようなものです。食料品はフードバンク、看護協会などに協力してもらっています。

色々な方がこられ、センターがやっている引きこもり女子会なども紹介しています。ゆるく、肩ひじ張らず、予約なしで開催してきましたが、このところ定員をうわまわっています。今後は調整が必要です。今年度中に一度は、川崎駅にでて実施したいと考えています。この事業は、内閣府からの交付金でまかなわれています。

◆大庭さん（市議会議員／中原区）

飯島さんの講演、4つのタイプが非常に参考になりました。雇用問題重視、正規雇用の拡大、すくらむの調査を議会でとりあげ、具体的なものを、実態を明らかにさせながら訴えていきたいです。要望を聞かせて欲しい。

◆赤石さん（市議会議員／多摩区）

非正規の実態調査が必要と数年前から（川崎市に）提案しています。生活相談は行くのに抵抗がある人もいます。お月さまカフェが7行政区の身近にあると行かれます。

孤立、家族、コミュニティも壊され、相談の一步手前で解決出来る問題も多いので、社会全体で言っていないだよという空気を作らなければ。

もはや給付金(で解決できる)問題ではないです。非正規の方が40%以上で、明日どうなるかわからない人が50%も。脆弱性がすごい問題です。

◆Kさん：

寒川から参加。県職員を退職して10年。(かつて)勝ち取った権利が剥奪されています。正規、非正規、全労働者の中の男女差が実態として把握できていません。会計年度が3年ごとなので、専門職の人は継続できるか不安に感じています。

今年、県の男女共同参画プランの改定にあたりパブコメを募集しています。11/7までなのでぜひ書いて欲しい。県のホームページから入れます。

県の男女参画課は組織改革でグループになり、格下げで、力もだんだんなくなっています。調査を行うという意識もなく、女性のおかれている調査もしない。厳しい状況です。

◆Aさん（川崎区）

現在57歳です。長い間正社員でしたが、その後非正規で働き、今は仕事をやめ親の介護をしています。シングル、子ども無しだと働いていても同じ境遇の人は少なく、子育てなど、話題があわず、疲れてしまいます。シングルのイメージは例えば高級マンションに住み仕事をしている…などがありますが、現実とは全く違います。非正規の「非」というのに、否定的な印象をもってしまい。自分の人生が否定されたような気がします。

しかし、今その仕事が必要とされ、頑張っている人もいます。雇用の調整弁でも今すぐその仕事が必要とされている。役にたてる。

これからも自分は、非正規の仕事といっても正しい仕事だと思いながらやっていくと思います。

◆新見さん(フロア発言者)

私も独身で、子どもいません。楽しくいつまでも働いていられる仕事を希望しています。この先どうやっていこうかと不安です。

◆Sさん(正社員50歳)

自分(日本)の考えには家父長制があり、その生き方に反すると女性はいやな目にあいます。日本人はそもそも政治的な教育を受けていないので、声を上げる必要のある人が声をあげるのが難しい。生きづらさには2種類あり経済的、社会的があります。自分は生きていちゃいけないと言う相談ができる場所は少ないが、少しずつ増えてきて、社会が進んでいると思う。どういうところを直せば生きやすくなるか、恵まれた人たちが声をあげるべきです。モデル世帯に都合のいい法律ではなく、民意・人々・世論が声を上げて、法律に結びつくのが、大切だと思います。

◆青山さん（鈴木敦国会議員秘書）

議員秘書も格差がひどい。このテーマはいのちとくらしの話なので、政党をこえて取り組む必要があります。

◆飯島裕子さん（講師）

【まとめ】非正規シングルにこだわった講座の3回開催は中々ありません。自分は非正規に対して抵抗感はありません。ある意味、正規は無理だと思っています。もはや正規、非正規だと否定から来るイメージもありますが、普通にすら生きさせてもらえない、生きづらいと感じることさえ、言っただけいけない(のか…)

非正規・シングル・女性 の三重苦の環境から声をあげていくのが必要だと思います。

読者の投稿

## 介護のお仕事を

始めてみたら ②

恩田怜子



デイサービスでは 車で朝夕の送り迎えをしています。利用者の家族と会えるわずかな接点ですが、生活ぶりが垣間見えてきます。

認知症の方を認知症の家族が世話している、障害のある子供が要介護の親をみています、夫が妻が子が介護を拒否している家庭があります、子供と断絶していたり行方不明という家庭もあります。

経済的な理由で支援が制限されている家庭、支援を提案しても本人や家族がそれを拒否している家庭もあります。

もちろん熱心に介護に取り組んでいらっしゃる家庭や家族から大切にされている方もいらっしゃいます。

介護を必要とする高齢者は本当に様々です。

脳卒中などで身体麻痺があり、リハビリを頑張っている方、あきらめて立てない、できないと繰り返す方、認知症が進んで「服を着て」「こちらに来て」と要望しても動けない方、服の後ろ前がわからず着る順番も滅茶苦茶な方、話しかけても反応のない方、気に入らないと怒り出す方、突然立ち上がりふらふら歩きだす方、「家に帰る」と何度も出口に向かう方、昼夜逆転…日々接している家族の苦労が慮られます。

家族のレスパイト(息抜き、小休止)の為のデイ利用、これは介護で苦労する家族には必要不可欠な事です。朝お迎えに伺った時、「こ

れから少し寝ます」と仰った家族の疲れ切った顔が忘れられません。

何時まで続くか先が見えない介護、どう介護をすればいいのか見様見真似で始まる介護、介護する家族も、介護される本人もどちらも大変な思いをしています。

介護保険制度はそこを整理し、必要な介護を提供し、家族ともども安心安全な生活が出来るようアドバイスし、住み慣れた家で生涯暮らせることを目指していた筈です。

これがいつの間に 本人頑張っ！ 家族は介護頑張っ！になってしまったのでしょうか。先日厚労省から介護保険制度改定の見直し論点が提示されました。要介護1, 2の保険給付外し、ケアプランの有料化などここでも値上げラッシュ。

かつて看護業界が重労働・低賃金による深刻な人手不足が問題となり 長い闘いを経てやっと改善の兆しが見えてきました。しかしその看護師が子育てを続けながら働くための保育園不足、保育師不足、親の介護で離職しなくて済むはずの介護業界の不安定さ。

介護業界だけでなく、医療や福祉など生活に直結する業界だけでなく国民全体が、現場の状況を無視し(公的な)お金をかけない政策によって、「ゆりかごから墓場まで」「健康で文化的な生活」をおくれない状況におかれています。

## ●● 女性による女性のための相談会 10/29 in 横浜 波止場会館 ●●

女性による女性のための相談会@かながわが開催されました。東京で開催された同相談会にスタッフとして参加した方たちが、神奈川でも取り組もうと実行委員会を8月1日に立ち上げました。個人参加による実行員会は最終的に90人になりました。

当日は31件の相談があり、相談者さんからインテーク担当がお茶を飲みながらお話を伺い、内容により専門の相談員も入ってお話するという流れでした。

相談会参加者の感想・要望を書くためのレノンウォールに、「温かい場所だった」「来てよかった」とあり、実行委員の一人として参加できたことを嬉しく思いました。

特権(マジョリティ)、SOGI、格差を生む社会的な構造についてなどの学習もあり、一緒に学び、行動する仲間との出会いがあり、かけがえのない時間でした。



## 参加者からの感想・意見

### 非正規で働いています…

◆非正規です。週5日働いていましたが今年の4月からコロナ禍を理由（イベントが無くなった）に、週5日から週4日に変更させられました（収入の20%減）。私の職場は、非正規の私と正規の職員1人の、2人しかおりません。正規の職員は何も「減」はなく守られている。

何が一番問題か、私の職場は「労働組合」なのです。

コロナ禍により、異常なことが起きていると思う。納得できず、川崎労働組合総連合に相談に行き、加入して団体交渉中。

◆独身、子なし、非正規… しかも50代！！となると、なんとなく居場所が無いように感じました。でも、どこかに受け皿があるのかもしれないな…と前向きになりました。

・非正規雇用の地位向上、賃金向上・イメージ向上！！

そのためには非正規で働くための知識や仲間が必要だな～と思いました。非正規で、いろんなところで働くことで、色々な経験をしています。

### 胸に響いたこと

◆最初の数分を見逃してしまって残念でした。コロナによって見えやすくなった女性の問題について改めて考える機会になりました。飯島さんのお話からそれぞれ皆さんが考える思いを、お聞きでき興味深かったです。

「正規」「非正規」「シングル」と言う言葉について、他の方の意見から使い方を考えてしまいました。非正規といっても、責任持って働いているのにすすめる会通信218号

## たくさんの感想が寄せられました

20代0人 川崎区3人  
30代2人 中原区1人  
40代1人 高津区3人  
50代3人 宮前区1人  
60代4人 多摩区2人  
70代3人 麻生区2人

川崎市議会議員2人

市外 3人

(横浜市・寒川町・福生市)

参加者27人(内スタッフ7人)

(アンケート回答15人)

否定的な意味が含まれていること、暮らせる賃金が得られないこと、いろいろ思いました。

◆まさに自分のことを言われているようで、心が救われた感じでした。お日さまカフェの件、もっとわかりやすく、多く広めてもらいたい。

◆飯島裕子さんの講演では、現場(当事者)の声を具体的に紹介していただき、改めて状況の深刻さを実感いたしました。

特に派遣の問題(命の格差のような差別)、公的ワーキングプアの問題、高齢者女性の貧困はショッキングでした。声を上げられない人の声をどのようにしたらピックアップできるのか。アウトリーチの手法、もっと追求すべきだと感じました。

### 当事者ではないですが…

◆今日は、非正規シングルでは無いですが、当事者と言う気持ちの理解のために参加しました。改めて声を上げていくことの大切さ、実態など学ぶことが多い会でした。

根強い問題で日本社会におけるジェンダーロール、新自由主義とが絡んでいて、根本から変

えるためにはエンパワメントだと思っています。つながり、私もまた一当事者として声を上げていきたいと思いました。

〈要望〉ぜひ続けてください！お手伝いできることがあれば！

◆「非正規シングル女性の現場…」と言うことが、女性の貧困、差別的待遇は、過去から将来に共通する問題であり、「大林さんは私だ」と同様「コロナは全てに共通だ」と思う。

女性の差別的待遇は、けれど男性にも共通する部分があると思う。こうした女性・男性に共通する課題の発生、解決は2つの大きな要因があると考えられる。

1つは社会的思考、貧困の需要と言う面、いわゆる世間一般として履歴や世間的常識から「差別待遇はしょうがないよ」といった発想が通念として流通してしまっていることではないか。

今一つは、行政～権力による故意である。現在の行政～権力が一方の利害を代表する権力である以上、差別的待遇の改善や、そのための常識の是正へのベクトルは、基本的に存在しない。社会的・政治的権力を維持するための犠牲者が必要であり、法制度を改めてでも犠牲者を作り出す。これに抗うためには膨大な体力と知力が必要と考えています。

常々、本日のような会合で感じることは（時間的余裕によるものと思うのですが）弱い立場の人は、しばしば知識・情報弱者でもあるということ。それ故にこうした研修？意見交換の場は絶対に必要なので一層の活動を期待するとともに、嫌われても何しても、こうした活動をコツコツ続けていただきたいと思っています。（乱筆陳謝）

## 講座に参加して

◆非正規シングル女性の問題については、表面的にしか知りませんでした。今日話を聞き、知らないことが多く、また参加された皆さんの声も聞けてよかったです。ありがとうございます。

◆非正規シングル女性の実情を知りたくて参加しました。男性です。

声を上げたり、当事者のみで連帯することが困難な中で、当事者でない者が、ともに声を上げることが非常に大切だと感じました。

◆現在も高齢女性の貧困率が高いが、今後も急速に高齢化が進む事は確実です。その時地域社会が「不幸とを感じる人を誰1人取り残さない豊かな高齢社会」であることを目標に麻生区で活動も始めたところです。

「あさお希望のシナリオ実行委員会主催のシンポジウムなど」(2022年9月23日開催100人参加)

「老の福袋」と言う本を読みました。(介護保険制度を作った方の書いた本)

①現状の個別の問題への対応に加えて

②社会の仕組み(近くて、簡単な手続きで働きたいときに働いて、現金が得られる仕組みなど)での対応も必要だと思います。

◆フロア発言でもお話しさせていただいたことですが、川崎市男女共同参画センターが行われた「非正規シングル女性の調査」に驚いたことが本企画に参加するきっかけとなりました。

それは、調査が明らかにした実態に驚いたと言うこともあります。調査のまとめで「困難に対する金銭的補償、生活支援の相談、手続きへの同行支援、

居場所づくり」が必要だと提言され、7月にはカフェを立ち上げられた。この思い切った提言と展開力はすごい。

もっとすくらむ21のことを知りたいと思っていたところ

「非正規シングル女性」の困難を学び「どんな働き方をしても安心して生きられるために何が必要か、一緒に考えましょう」と本企画の告知があり、すぐに参加を決めました。

飯島裕子さんの講演と参加者の発言はとても刺激的でした。

「ないものとされるシングル女性」「生きづらさ」と言う事実を社会構造の中でとらえることが重要であると確認できたこと。

「なんとかしたい」「何ができるのか」との思いや考えを、参加者と交わすことができた事は嬉しく、有意義でした。

飯島さんは講演の結びで「当事者の1人として痛みを分かち合い、小さくても声をあげよう」と投げかけられました。

この会は、参加の動機や考えや生活背景の違いがある人々が「分かち合い行動する」契機になっていると感じました。私も行動を起こしていきたいと思えます。

2006年から川崎に勤務しているのですが「すくらむ21」

「広報提案型協働事業」の存在を今にして知りました。この意義ある活動をご存じない市民が多くおられると思います。地域の一員として多くの人に知っていただく、参加していただくきっかけを作っていければと思っています。

◆大変勉強になりました。まず感謝申し上げます。

女性ではありませんが鈴木(衆議院議員)が非正規出身貧困の実体験があり、ライフワークとしています。24日に衆議院予算

委員会で、総理と非正規問題について議論を行う予定となっておりますので、ヒントが得られればと参加させて頂きました。子どものいないシングル女性にはほとんど支援がないと言うご指摘はごもっともです。(国会議員秘書)

## すすめる会へのメッセージ・リクエスト

◆集まれば、話をすればたくさんの実態が明らかになっていくことが、わかってきました。

ぜひ、声を出し続けることが重要です。ありがとうございます。学習活動はコツコツ続けてください。

◆要望 協働事業、有意義な会を企画実行していただきありがとうございます。

すすめる会の活動に注目していきます。

◆声を上げられる人が、声を上げることが、声を上げにくい人の状況を変えていけるかなと思いました。

(要望)長く活動続ける事は大変な面も多いと思いますが、今後もこうした場を作っていただけたらありがたいです。



たくさんのご意見  
ありがとうございました